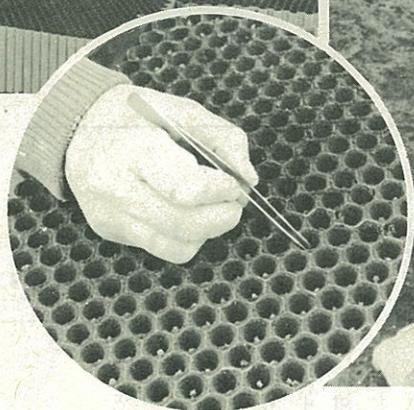
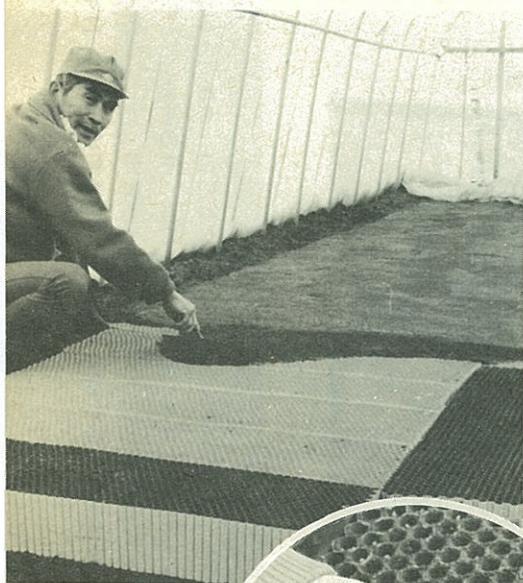


ハウスの中は もう春の準備

畑には50センチの雪がまだ残っています。でも、ハウスの中は、もう春のように暖かく、ビートのポット作りが行われています。



今月の主な記事

- 第四回明るいまちづくり住民大会……………二・三ページ
- 昭和五十六年度予算決まる……………四〇七ページ
- 新総合振興計画を策定……………八〇十ページ
- ふるさと館ニュース……………十二ページ

まくべつ

'81 (昭和56年)

351

●発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(01555) 4-2111
●編集・町民課広報広聴係 ☎内線111 ●印刷・ソーゴ印刷

4

第四回「明るいまちづくり住民大会」が二月二十二日、町民会館に二百人が参加して行われました。大会では、①人生に「生きがい」をもとう ②子供に「ぬくもり」のつたわる教育を ③健康づくりを日々のくらしの中に

の三分科会に分かれ活発な話し合いがされました。分科会で話し合われたことをご紹介しますので、当日大会に参加できなかった皆さんも、ごいっしょにお考えください。

第一分科会

人生に

「生きがい」をもとう

高齢化社会が進むなかで、老人福祉と言えば「生きがい」と言う言葉がかえってきます。「生きがい」をもち心豊かに暮すためにはどうしたらよいか話し合われました。

また、ことは国際障害者年です。障害をもつ人が社会へ参加するために、地域社会は、障害をもつ人はどうしなければならぬかが話し合われました。

①生きがいとは、どのようなものなのだろうか。

〈発言〉——「生きがい」とは、自からやりたいと思っていることに取り組み、それが生活の一部となることはないだろうか。

〈発言〉——「生きがい」は他から与えられるものではなく、自からが発見するもので、人によって異なるものだ。

〈発言〉——「生きがい」の出発点は、自分が安心してやすらぎを求めることができる場(家庭)

住みよい地域社会をつくろう



ではないだろうか。

②生きがいをもつためにはどうしたらよいのだろうか。

〈発言〉——まず、体が健康で、家庭が円満であることではないだろうか。

〈発言〉——婦人学級やしかば大学、老人クラブに積極的に参加することが大切だと思う。

③障害をもつ人の社会への参加をどのように進めたらよいか。

〈発言〉——障害者問題は、私たち自身の問題として正しく理

第二分科会

子供に「ぬくもり」のつたわる教育を

解決し社会の連帯意識の中で解決していかなければならないと思う。

〈発言〉——障害者自身も、社会に甘えずやる気になってがんばり、そのことで、社会参加を果し、理解を得られるようにしたい。

次代を担う子供たちに、親はみんな心身の健やかな成長を願って

第4回 明るいまちづくり住民大会

いる。しかし、新聞やテレビをにぎわす子供たちの非行は年々増加の傾向にある大きな社会問題となっている。

子供の成長に家庭は、学校は、地域はどのようにならなければならないのかを話し合われました。

①親はどのような子供に育ってほしいと願っているのか。そのためにどのような事に心がけているのだろうか。

〈発言〉——ふるさと(郷土)意識をもつような子供になってほしい。自分に強く、思いやりのある子供に育ってほしい。

〈発言〉——子供は親の姿をみて育つという。子供から信頼される親になろう。そして、明るく家族みんなが理解と協力し合う家

庭をつくるのが大切だ。親子の対話を多くもとう。

②学校などでは……。

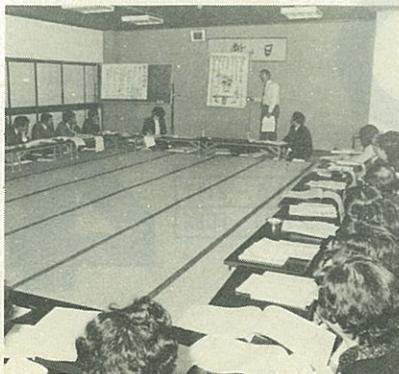
〈発言〉——幼稚園では、あたたかい思いやりのある子供に育てるため知育だけでなく、子供の感情を大切に豊かな心を育てる教育に心がけている。

③地域では……。

〈発言〉——学校教育は先生の統一したはつきりした態度が必要だ。親切に教えて、良い習慣、規律ある生活を身につけさせることが大切だ。

④非行を未然に防止するためにはどうしたらよいのだろうか。

〈発言〉——子供は地域の環境によって大きくかわる。大人は同じ地域に住んでいて連帯感がありにも薄いのではないか。公園、道路で注意をしなければならぬ行為を見かけたら、我が子でなくても注意をしよう。子供の成長は地域全体で見守って行こう。



〔発言〕——まず家庭が大切だ。しっかりした家庭に非行は生れていない。家庭、学校、地域が一体となって子供を育てよう。

〔発言〕——「親と子の対話をもつようにする。小さな親切運動の推進。ひと声運動の推進」以上を地域で取り組もう。

第三分科会

健康づくりを日々の

くらしの中に

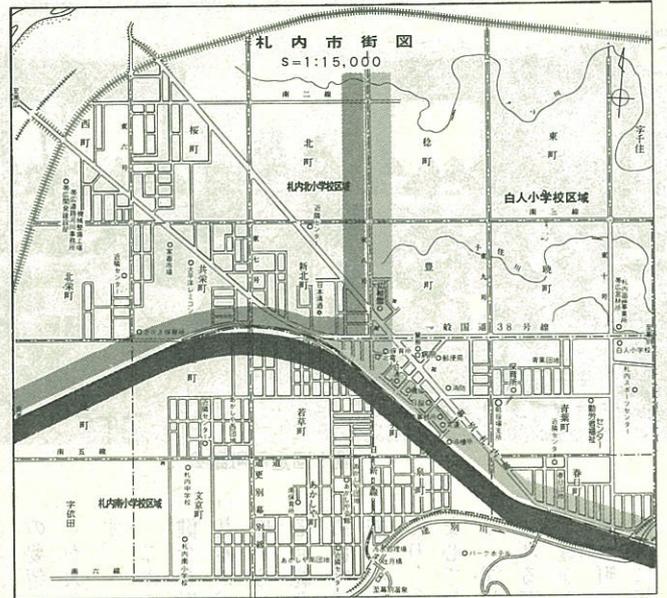
私たちが明るく幸せな毎日を通すには、心身ともに健康であることです。

第三分科会では、スポーツ活動と健康づくりについて話し合われました。

〔発言〕——健康づくりにはスポーツが一番良い。まず、身近かにできるスポーツから始めよう。健康づくりには、①身体的 ②精神的 ③社会的なものが忘れられないものに食生活の工夫もある。

〔発言〕——スポーツを通して汗を流し、笑い、「人の和」づくりをすることが出来る。スポーツを地域活動にとり入れよう。個々の健康づくりにもつながる。早朝マラソン、ラジオ体操、軽スポーツ大会を行っている公区もある。

〔発言〕——婦人のスポーツ参加には、家族の理解と協力が必要。家族みんなでスポーツを始めよう。家庭も明るくな



札内地区通学区区域図

り、健康づくりにもなる。生活時間帯の見直しからスポーツを楽しむ時間をつくろう。

まとめ

四回目を迎えた住民大会。年々参加者も増え、話し合いも充実したものに作り建設的な意見もたくさん出されています。

これまでの住民大会は、住みよい地域づくりへの模索の場でした。しかし、ことからは出された建設的な意見をもとに地域活動の中で実践へと進めてください。そして、来年の住民大会では、その成果を話し合いたいと考えています。住みよい地域づくりの主役は、そこに住むみなさんたちです。

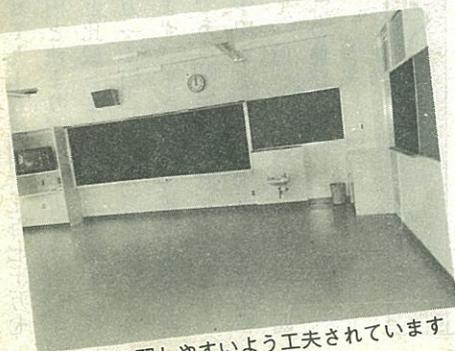
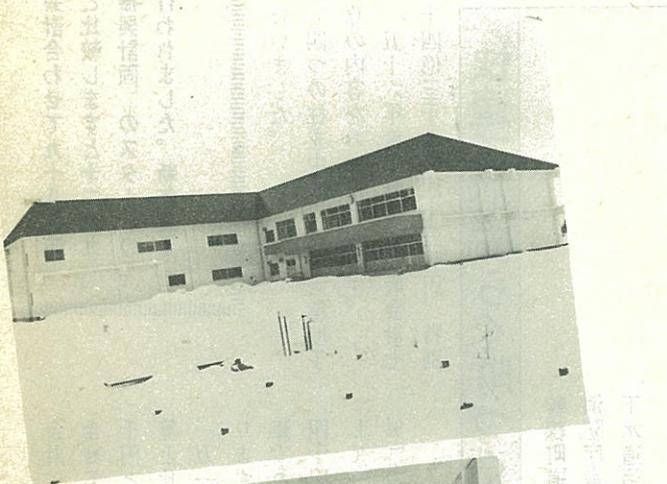
4月開校の 札内北小学校

人口増加の著しい札内地区に三番目の小学校「札内北小学校（仮称）」が完成、四月に開校することになりました。

完成したのは校舎部分（二千三百三十六平方メートル）で、屋内体育館は五十六年度建設されます。

学校規模は、二階建て九学級で普通教室九室、特別教室四室です。

また札内北小学校の開校にともない札内地区の通学区は、上記図のように変更になります。



教室は学習しやすいよう工夫されています



暖房は温水暖房



充実した特別教室

生活環境教育施設の整備を重点に



第1回定例町議会

昭和五十六年度の町づくりに使われるお金は、一般会計、特別会計合わせて九十八億四千三百七十七万七千円と決まりました。これを五十五年当初予算と比較しますと十二億九千二百一十一万一千円、一五%の伸びとなります。新年度は「新総合振興計画」のスタートの年であり、新計画を柱に魅力ある地域づくりを目指し予算編成が行われました。新年度予算の中から皆さんの身近なことについてお知らせいたします。

昭和五十六年度の町づくりの方向を定める第一回定例町議会が、三月六日から十九日までの十四日間を会期に開かれました。
大石町長は「住みよい、暖かい豊かな町づくりを基調に魅力ある町づくりを推進します」と新総合振興計画を柱とした町政執行方針

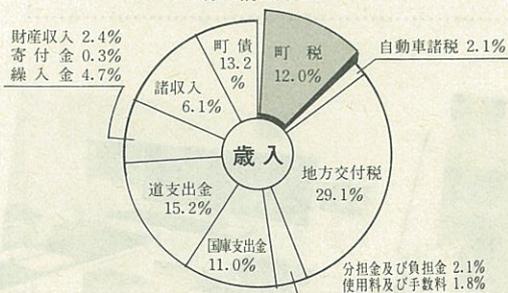
並びに昭和五十六年度予算案を報告、提案し議決されました。
五十六年度の国の地方財政計画により、地方債依存体質から脱却を指向し、地方自治体の財政の体質改善が強調されており、町財政運営も一段と厳しい状況がむかえる事になります。また、町政に対する町民の皆さんの要望も多様化し、限られた一般財源の中で、どのように皆さんの要望に応えていくか大きな課題です。

このため町では健全な財政運営を基本に、五十六年度からスタートする新総合振興計画の四つの柱(①快適で心安らぐ町づくり ②あたたかな心で包む町づくり ③教育の輪を広げる町づくり ④豊かさ活力のある町づくり)を中心に予算編成を

予算総額 (単位 千円)

会計区別	昭和56年度	昭和55年度	伸率
総額	9,843,707	8,551,696	15.1%
一般会計	7,437,430	6,411,172	16.0
特別会計	2,406,277	2,140,524	12.4

一般会計歳入構成状況



「快適で心安らぐ町づくり」では、道路網の整備をはじめ、上下水道や公園、交通安全施設など生活環境の整備を積極的に行います。

道路は、町内を網の目のように走り生産と生活の両面を支えています。

道路

快適で心安らぐ町づくり

幹線町道一万五百四十九線を整備
消防庁舎を増改築
下水道汚水処理棟を建設

行いました。
四つの柱を中心に五十六年度予算の内容をお知らせします。
五十六年度予算は、一般会計七十四億三千七百四十三万、特別

会計二十四億六百二十七万七千円合せて九十八億四千三百七十七千円と決まり、五十五年当初予算と比較しますと十二億九千二百一十一万一千円(一五%)の伸びとなります。また、町財政の主要な財源である町税は、八億九千六百万四千円を見込み五十五年度と比較して一億一千四万三千円(一四%)の伸びとなります。

る大切なものです。町では、五十六年度も改良・舗装工事を積極的に進めます。

幹線町道では、軍岡大豊線道路（改良舗装）、依田七線道路（改良舗装）、幕別札内線道路（舗装）など十九路線八千二百九十五延を整備します。市街地道路では、継続事業である千代田通り街路など十一路線二千二百五十四延を改良舗装します。交通安全施設整備では旭町六条通り百九十六延に歩道を設置します。

このほか、防じん処理や砂利敷き、除雪など町道の管理を積極的に行います。

公園

町では、豊かな自然を生かした自然公園と身近かな憩いの場となる公園の造成を進めてきました。

自然を生かした公園では、継続事業の明野が丘公園と依田公園（幕別温泉周辺）を造成しますが、明野が丘公園は遊戯広場（アスレチック）と園路の造成を、また、依田公園はトイレの設置と園路の造成を行います。

また、身近かな憩いの場であり子供たちの遊び場として新緑公園（新緑町団地内）、止若公園（町民会館うら）、札内南二号公園（札内泉町）を造成します。

住宅

町民一人ひとりが快適な生活環

境で生活できるように、町では、宅地の造成や公営住宅の建設を進めてきました。

五十六年度は、新緑町団地に一種三LDK一棟（四戸建）と二種三LDK一棟（四戸建）を、また札内桂町には二種三LDK一棟（六戸建）を建設します。

消防

町民の皆さんの生命と財産を守るため幕別消防署を中心に、消防、救急業務が昼夜行われています。



建設される消防庁舎

五十六年度は、老朽化した消防庁舎の増改築工事が行われます。総面積千九百平方延、二階建ての近代的な庁舎に生れかわります。

下水道

下水道は、雨水や日常生活から生じた汚水を処理し河川へ放流するための施設で、私たちが健康で文化的な生活を営むために欠かせない施設です。

町では、幕別市街地区を公共下

水道事業で、また、札内市街地区を十勝川流域下水道事業で整備を進められています。

五十六年度、公共下水道事業は、汚水幹線七百六十六延、汚水枝線三千四百八十六延、水処理棟（鉄筋コンクリート造り千九百九十平方延）の建設が行われ、汚水管渠は総事業の七五%が完成します。

また、十勝川流域下水道事業は帯広市、音更町、芽室町と共同で事

あたたかな心で包む町づくり

「あたたかな心で包む町づくり」では、地域ぐるみの助け合いを基調に、みんなが生きて喜びを十分に理解できるよう福祉社会の確立と健康の増進を図ります。

福祉

福祉は、生活の保障とともに心の豊かさの充実を求めるもので、相互扶助の精神が基本となります。

町では、五十五年にお年寄り

が自分にあつた生きがいを発見し楽しく充実した生活を過していただこうと「老人趣味の家」を建設しました。五十六年度は、その隣りに「老人福祉センター（五百二十平方延）」を建設します。同センターには、集会室、図書室、娯楽室を設け、お年寄りの憩い場と

業が進められています。五十六年度町が負担するお金は二千四十八万円です。

土地区画整理

道より認可されて二年目を迎えた札内北土地区画整理事業。五十六年度は、地権者の意向を充分尊重しながら、仮換地の指定と都市計画道路の造成を行います。

老人福祉センターを建設
働く婦人の家を建設
町民健康センターの活動を充実



老人福祉センター建設予定地
(老人趣味の家に並設)

して使われます。

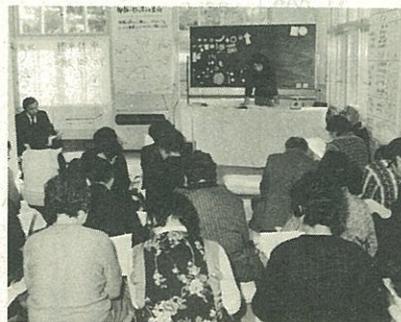
また、婦人活動を中心に多目的集会施設として「働く婦人の家（六百八平方延）」を札内中央町に建設します。

このほか、心身障害者の方、母子家庭、低所得世帯への施策は五十五年度と同じく引き続き実施し

ます。

保健

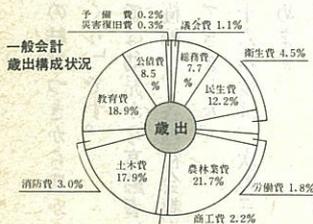
私たちが明るく幸せな毎日を過ごすには心身ともに健康であることです。町では、町内の開業医のみなさんの協力を得ながらいろいろな保健活動を通じて町民の皆さんの健康管理と疾病の予防に最善をつくします。



町民健康センターの活動を充実

また、五十五年設置した「町民健康センター」を中心に、成人病の検診・予防・相談活動を積極的に進めます。

休日と夜間の医療体制は、ことしも町内の開業医のみなさんのご協力をいただき万全を期します。



豊かさとし活力ある町づくり

農村総合モデル事業がスタート
農道六千三百四十八号を整備
魅力ある商店街づくりを推進

「豊かさとし活力のある町づくり」では、高生産農業を中心に、林業商業など産業の振興を進めます。

農林業

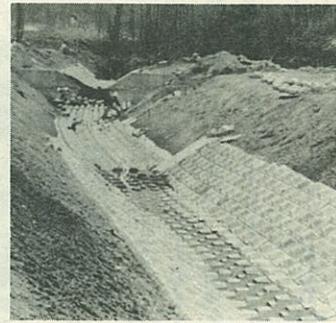
町の基幹産業である農業を取り巻く社会情勢は、停滞する社会経済の影響を受け、農畜産物の価格の不安定など厳しい状況にあります。

このため、町では土地基盤の整備や農村生活環境の整備を進め、安定した魅力ある農業経営の確立を目指します。

土地基盤整備事業は、事業費が高額なうえ長期間かかることから国や道の政策に頼らねばなりません。町では、国や道に事業の早期着手、早期完成を積極的に働きかけていきます。

五十六年度は、農村総合整備モデル事業がスタートし集落道路の改良整備が行われます。二年度を迎えた新農業構造改善事業では、軍岡集落センター、種子馬鈴しょ貯蔵庫の建設、農業機械の導入が行われます。

このほか、農道整備では相川北農道など十路線六千三百四十八号が整備されます。



進められる土地基盤整備

国営、道営事業は次のとおり。
(国営事業)

古舞地区農地開発事業、茂登谷地区直轄明渠排水事業など六事業が行われ、道路二千九百六十号、明渠排水路五千二百号、農地造成

教育の輪を広げる町づくり

白人小学校を増改築
札内北小学校の屋内運動場を建設
社会教育活動を充実

「教育の輪を広げる町づくり」では、創造性豊かな人材の育成と北方文化の振興を図るため、教育環境の整備充実と生涯教育体系を確立するとともに、社会教育、体育活動の輪を広げていきます。

学校教育

学校教育では、自然や社会に對

五十号が整備されます。
(道営事業)

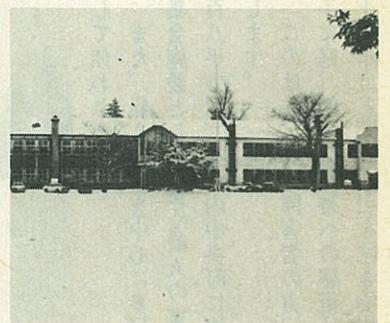
西隼内二期地区農免農道整備事業、南勢地区畑地帯総合土地改良事業など八事業が行われ、道路四千七百四十五号、明渠排水路六千四百号、暗渠排水路百八十号が整備されます。

酪農振興では、自給飼料生産向上特別対策事業を積極的に推進します。

商工業

商工業は町の経済活動のなかで重要な役割をもっています。

町では、商店街診断結果を経営の改善と合理化に役立てていただき、魅力ある商店街づくりを推進するとともに、中小企業融資利子補給や商工会活動の援助も行います。



老朽化し増改築される白人小

がおかれ、老朽化の著しい白人小学校の増改築工事、校舎部分が完成し四月に開校した札内北小学校の屋内体育館を建設します。

社会教育

社会教育の目標は「一人ひとり

の心の結びつきから豊かな地域社会づくり」です。
町では幼児から高齢者に至るまで積極的に、各種社会教育活動を進めてきました。
五十六年度は、次の三点を重点に進めます。
① 町民の自主的な活動を促進する社会教育の推進
② スポーツの生活化を促進する社会教育の推進
③ 心を豊かにする文化活動の創造と文化財を継承するための活動の推進
社会教育は、町民の皆さんが満足できる学習の場を用意しても、皆さんの参加がなければ無意味なものとなります。皆さんの積極的参加を期待します。

特別会計別予算額

(単位 千円)

会計区分	昭和56年度	昭和55年度	伸率%
総額	2,406,277	2,140,524	12.4
国民健康保険会計	918,418	822,932	11.6
簡易水道会計	16,405	42,047	△60.0
駒島営農用水会計	2,373	12,439	△80.9
飲料水供給施設会計	8,043	11,009	△26.9
公共下水道会計	707,993	554,378	27.7
土地区画整理事業会計	224,668	80,721	178.3
国民宿舎事業会計	278,236	301,264	△7.6
上水道事業会計	250,141	315,734	△20.8

新総合振興計画を策定

生きる喜びを創造するまち

幕別町

私たちのマチ、幕別町の将来像はどうあるべきか。幕別町の歩むべき基本方向を定めた「幕別町新総合振興計画」がまとまりました。今後、あらゆる町づくりの

施策が、この新総合振興計画にもとづき展開されることとなります。町民の皆さんに住みよい町づくりをご理解いただくため新総合振興計画の概要をシリーズでお知らせします。

総合的な福祉社会の建設

目標年次は昭和六十五年度…

幕別町の歩むべき基本方向を定めた「幕別町新総合振興計画」がまとまり、一月開かれた臨時町議会において議決されました。

町では、昭和四十六年度に「第一次総合計画」を策定し、町づくりを進めてきましたが、同計画が昭

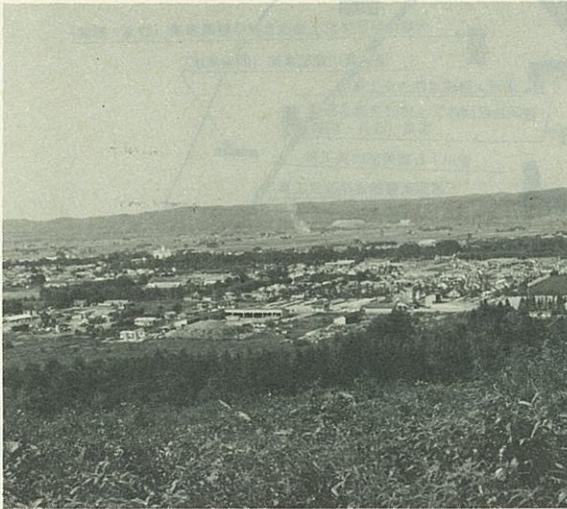
和五十五年度をもって終了するとと、社会情勢の変化、町民要求の多様化などの確に対応するため「幕別町新総合振興計画」を策定したものです。

新総合振興計画（以下、新計画という）は、基本構想・基本計画

実施計画の三部構成となっており、

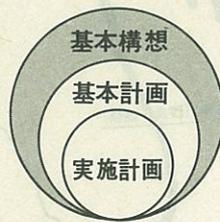
それぞれ次のような性格をもっています。

- 基本構想
幕別町の将来像をもとに町づくりの目標を設定。
- 基本計画
基本構想にもとづき、体系的に行政部門別の計画を策定。
- 実施計画



明野が丘公園より幕別市街を望む

基本構想編



新総合振興計画体系

基本計画を具体的に実施していくため三か年の短期計画を策定。

総合計画審議会

を設置

新計画の策定にあたり、町ではより多くの町民の皆さんの声を把握しようとして「総合計画審議会（委員三十人）」、「総合計画策定委員会（委員・町職員四十人）」の設置、講演会の開催、千五百人を対象とした「住民意向調査」の実施など二年間にわたり積極的に取り組んできました。

また、「総合計画審議会」は、取り組みのなかから出された町民の皆さんの考えを柱に「私たちの町は私たちの手でつくる」という自治意識の向上と「豊かな自然の中で生活を優先し生産を高めることのできる地域社会の形成」を基本に策定しました。

今月号からシリーズで新計画の内容をお知らせします。

基本構想は、町の将来像をもとに、町づくりの目標を設定したもので、昭和五十六年度を初年度に昭和六十五年を目標年とする十年構想です。

町では、町の将来像を想定するにあたり、町づくりのテーマを町民の皆さんから募集し「生きる喜びを創造するまち——幕別町」と決めました。「生きる喜び」すなわち、総合的な福祉社会の建設を町づくりの目標にしようとするも

のです。

町づくりの柱

基本構想では、このような町の課題や「住民意向調査」の結果をもとに ①快適で心安らく町づくり、②あたたかな心で包む町づくり、③教育の輪を広げる町づくり、④豊かさや活力のある町づくり、の四つの柱を町づくりの重点目標としました。

また、人口などについて次のように想定。

①人口

昭和六十年年度に二万二千五百人、目標年次の六十五年年度には二万七千人を想定。

②世帯数

一世帯当り人口を六十年年度三・四人、六十五年年度三・三人と設定し、世帯数は、六十年年度六千九百世帯、六十五年年度八千八百八十世帯と想定。

③就業人口と構成

総人口に対する就業比率は、昭和六十年年度四九・四％（一万一千六百人）、六十五年年度四八・九％（一万三千人）とする。就業構成は、第一次産業が昭和五十五年の二八・九％から六十五年には一六・二％（二千百人）、第二次産業二一・四％から二八・五％（三千七百人）へ、第三次産業は四九・七％から五五・四％（七千二百人）へと推計されています。

重点目標にそって基本構想をお知らせします。

快適で心安らく町づくり

道路網の整備をはじめ、上下水道や公園、交通安全施設など町民が快適で安心して暮らすことのできる環境づくりをすすめる。

■土地利用

幕別・札内地区の市街地の広がりにより、農地からの転換が求められるが、農用地の確保にも配慮して生産性の向上と生活基盤の整備につとめ、効果的な土地利用をはかるとともに、未利用地の開発活用につとめる。

■都市計画

幕別・札内両市街化区域内では住宅・事業所などの拡大が予想されるので、人口分布の動向や社会環境の変化を勘案し、秩序ある都市計画事業を推進する。都市計画道路や区画整理事業、公共下水道事業、公園事業などの促進。

■交通体系

国道三十八号線の交通量の増大に対応するため、バイパスの設置を検討。本町の中央部を南北に横断する広域農道の新設促進。町道の改良、舗装を積極的に実施。

■資源エネルギー計画

石油代替エネルギー対策を推進し、太陽熱・地熱・その他のエネルギーを積極的に活用するため、ローカルエネルギーの開発を進め地域社会の振興と福祉の向上を図る。

■安全性の確保

消防、救急対策として、火災予防の徹底と非常備消防組織の充実、消防施設の増強を図る。

あたたかな心で包む町づくり

地域ぐるみの助けあいを基調とする「あたたかな思いやりの心」で、町民誰もが生きる喜びを充分に感じられるよう充実した福祉

■利便性の確保

飲料水は、上水道・簡易水道・飲雑用水施設の拡充や水源の確保、水質の汚染防止につとめる。下水・排水対策は、公共下水道事業と集落排水施設の整備を促進する。

■快適性の充実

居住環境の快適性を保つため、緑と空間が必要であり各種公園を整備する。住宅対策は、両市街地を中心に快適な住宅地を造成し、環境の美化、保全につとめる。公害防止のため監視体制の強化、防除施設の設置、苦情相談を促進する。

社会の確立と健康の増進を図る。

■児童福祉

心身ともに健全な児童の育成環境を整備するため、保育所の適正配置と保育内容の充実強化、遊び場の確保、児童館、児童公園、ちびっ子広場の設置を促進する。

■母子福祉

生活の問題などの相談・指導体制の確立。母子福祉団体の育成を促進。

■老人福祉

高齢化社会に対応し、老人が楽しく生きがいを持って生活できるように老人福祉施設を整備する。また、自主的活動の助成、ホームヘルパーの派遣、移動入浴車、健康診断など幅広い対策を促進し、豊

かな老後生活の確保を図る。

■心身障害者福祉

身体障害者及び精神薄弱者については、在宅援護活動を推進するとともに関連施設の整備を促進する。

■低所得者福祉

就業援助、職業指導などにより自立を助けるほか、実情に即した保護施策の充実を図る。

■勤労者福祉

勤労者が、ゆとりのある充実した生活を確保できるよう、勤労者福祉施設および福祉制度の充実を図る。労働条件の向上につとめる。

■健康

町民健康センターを拠点として町民の保健衛生向上につとめるほか保健活動の充実を図る。環境衛生対策として、広域行政との連携によりごみ・尿の衛生処理施設の拡充整備を促進する。

教育の輪を広げる町づくり

教育は豊かな地域社会と幸せを

築く基本となるもので、最も重要な課題である。そのため、長期的総合的な視点に立って、幼児教育学校教育、社会教育、文化、スポーツなど一貫性のある生涯教育体系を確立するとともに、情操豊かで、たくましい人材を育成し、文化的な香りの高い町をつくる。

■幼児教育

人格の形成は幼児期に形成される傾向が強く、幼児教育は人間形成の第一段階として重要であるから、家庭や保育所などと連携をとりながら幼稚園の充実を図り、情操豊かで愛情のある人間に成長するような幼児教育を推進する。

■学校教育

学校教育の基盤となる義務教育を適切かつ効果的に進めるため児童生徒の通学負担を配慮した通学区のあり方について検討し、施設規模の適正化を図る。教育機器、設備の整備拡充、情操教育および科学教育の充実を図る。

■社会教育

社会教育は、社会生活における生涯学習の機会を提供する場として、あらゆる階層、地域にその浸透を図る。自発的学習意欲を満たす機会と場の提供、公民館・近隣センター・図書館・体育施設・各種公園の整備充実につとめる。青少年の健全育成のため、家庭・学校・社会が一体となって、社会環境の健全化、青少年教育の拡充、青少年団体の育成充実につとめる。

■文化とスポーツ

各種文化芸術団体の育成、交流を進める。郷土の先人が残した生活用具や文化芸能行事などの収集と保存、資料館や文化施設の整備を促進。スポーツ振興は、町民の体力づくり、健康増進を促進する。体育施設の整備を行う。

豊かさと活力 のある町づくり

町の産業構造は、近代化された高生産性農業を中心として、農業と商工業の振興を互いに調和できる体制の確立をめざすものとする。

また、町の特性に適合する内水面漁業や林業、観光なども他産業との連携により、地場産業としての育成を図り、町民所得の向上に役立てる。

■農業の振興

自然条件から畑作、酪農が中心となるが、恵まれた土地資源を有効に活用するとともに、土地基盤の整備と地力の維持増進、営農の近代化を促進する。また、集团的

な生産組織の育成と後継者の育成対策を推進する。

■林業の振興

計画造林を中心に、林道の開設撫育、間伐など効率的な林業経営の確立を基調に、特殊林産物の開発振興につとめる。

■工業の振興

既存企業の育成振興につとめるとともに、工業用地の造成と立地条件を整備して、資源活用型工業をはじめ優良企業の誘致を図る。

町づくり

見学会を実施

—多数ご参加ください—

町づくりを町民の皆さんにより深く理解していただくことと「町づくり見学会」を行います。

いままでは、「町内施設めぐり」と称して、各公区や婦人会に町のマイクロバスを提供、自由に町内の各施設を見学していただてきました。それを、より充実するた

め行うもので年二回（八日間）行います。第一回は、六月二十七日から三十日まで、第二回目は十月一日から四日までです。いずれも、木曜日から日曜日まで行われ、勤労者の皆さんも参加できるように日程をつくりました。参加申込みなど詳しい内容は六月号・九月号の

■商業の振興

魅力ある商店街を形成するため商店街の商業機能を充実、近代化させるとともに、安全で便利な買物ができよう広場や駐車場の整備を進める。

■観光の開発

観光資源と観光機能の連動を図り、観光客の滞留を促すための「自然観光ルート」の開発、地場産業資源の観光化、幕別温泉地区の活用による保養機能の充実を図る。



「広報まくべつ」でご案内します。また、「町づくり見学会」を行うことから、「町内施設めぐり」に町のマイクロバスの提供は行わないことになりました。

国枝さんから

百万円の寄付

国枝孝吉さん（中里）から、米寿のお祝いとして社会福祉に使ってほしいと町へ百万円の寄付がありました。



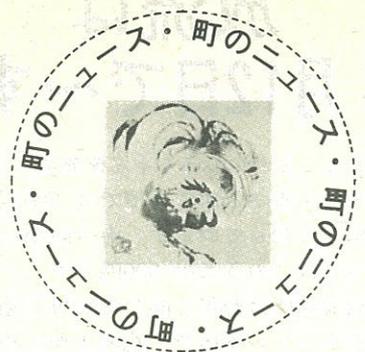
中島さんに紺綬褒章

中島国男さん（札内曉町）から老人福祉に使ってほしいと町へ百万円の寄付があり、これに対する紺綬褒章が大石町長より伝達されました。





相川団体開基85年記念式典が3月21日相川担い手センターにおいて開かれました。相川団体は昔、岡山団体と呼ばれ、開拓当時、岡山県の人たちが入植したところです。式典に引き続いて開かれた祝賀会では、古老の人たちを中心に昔話が出され先人の苦勞を偲んでいました。



みどり保育所に上面光夫さん(緑町)から子供2人が同保育所にお世話になったお礼にと「おひな様」一式が贈られました。同保育所ではさっそく、3月3日のひな祭りに飾り楽しみました。



幕別町技能士会の皆さんによる「刃物とき」の奉仕が3月25日、町民会館など4か所で行われました。切れ味の悪くなった包丁などを持参する奥さんたちで会場はみないっぱいです。新品同様切れるようになった包丁を手に感謝されていました。

「婦人が手をとりあい、明るい地域社会をつくろう」と第29回幕別町婦人の集いが3月8日、町民会館において開かれました。同集いには200人が参加、活動実践発表などが行なわれました。



糠内中学校生徒会で交通安全を呼びかける人形を作製、糠内小・中学校の出入口にそれぞれ設置しました。糠内地区は、帯広空港開港に伴い、釧路方面からの通り道となり交通量の増加が予想され悲惨な交通事故を防ごうと設置したものです。

ことしも旧途別川に白鳥が飛来し訪れる人たちを楽しませてくれます。三月二日には相川小学校の生徒四十人が見学に訪れ、白鳥保護観察員の道下さんから白鳥の鳴き声などを学びました。

●老人クラブ……
 ▼駒島老人クラブへ佐藤徳恵さん(駒島)から二万円 ▼相川西老人クラブへ脇坂忠義さん(相川)から一万円 ▼明野新川老人クラブへ三野弘さん(明野)から一万円 ▼同、妹尾守人さん(明野)から一万円 ▼同、沢田繁男さん(明野)から一万円 ▼同、棚留三郎さん(新川)から一万円 ▼同、高橋敏雄さん(明野)から一万円

●町公民館図書室へ……
 ▼幕別ライオンズクラブ(会長 杉野国男)から図書六十二冊(十万円相当)

寄付者のお名前

1人2口までOK
町民交通傷害保険
 保険期間は来年3月まで
 保険料は月額40円
 ★お申し込み、お問い合わせは役場交通防災係、支所、出張所へ

放流は 4月12日で～す

ことしもサケの赤ちゃんを放流します。いま、ふるさと館の水槽では500匹がすくすくと育っています。海へ向かって放流するのはこのうちの300匹です。

放流場所は昨年と同じ吐月橋（途別川にかかっている橋で、札内あかしや団地から幕別温泉に向かう途中）で、4月12日（日）午前11時からです。昨年の産卵・ふ化からずっと見守ってくれた町のみんなの手で、サケの稚魚を川に放したいと思います。参加希望の方は当日直接、吐月橋の所に集まってください。



同じ日に生まれたのに成長の違いがはっきり

サーモン通信⑥

3月31日で、ふ化から115日たちました。小さいのは体長が5cm弱、大きいのは8cmにもなりました。

小さいのは水槽の底近くを泳いでいるので、餌を与えても上を泳ぐ大きい稚魚がほとんど食べられてしまいます。こうして体の大きさの差は広がるばかりです。水槽の中といっても、弱肉強食の自然界の掟おきてが確かにあるのです。

5～6cmになったころからパーマーク（たて長の斑点）が消えていき、8cm前後になると斑点はなくなります。これを銀毛化ぎんげといいます。「海へ出ていきたいなあ」とサケの呟つぶやきが聞こえてきそうです。

〔資料と情報大募集〕●7月から「戦争」をテーマに特別展をします。体験談や資料（防空頭巾・千人針・爆弾の破片・当時の写真など）をお寄せください。戦争が幕別の人々のくらしにどんな影響や被害を与えたかを振り返る特別展にと考えています。

みんなで織ってみよう

かんたんに使える機織り機はたおを作りました。先月号で八十年以上も前の機織り機が復元できたニュースをお伝えしましたが、この小型のほう（右下の写真）は小学生でも使えるように、じょうぶでわかりやすい作りになってあります。

館内の体験室に置いてありますが、使ってみたい人は事務室へ連絡してください。使いかたをお教えます。ふるさと館で用意した糸は赤・青・黄の三種類ですが、自分の好きな色で織ってみたい人は極細毛糸ごくほそを持ってきてください。機織りをした人は寄せ書きにサインを。長さ五メートルまで織りあがった機械からはずし、みんなの共同作品として体験室の壁にかざります。

どこまでも広がるカシワ林、凍つく十勝の大地、この地に1人の男が立ちつくしていた。ここは十勝の中央部、猿別川の

下流にあるヤムワッカピラ（アイヌ語で崖下から冷水の湧出する所という意味）である。彼は新田仲太郎といい、愛媛県温泉郡山西村生まれ、大阪に出て製皮業（なめし皮）を営んでいた。

彼の目には、この茫漠とした大地にある大きなビジョンが浮かびあがっていた。

当時の幕別は、ようやく鉄道が開通しようとする頃で、街の形態もしだいに整ってきていたが、まだ止岩やむわっか（現在の幕別市街）よりは猿別のほうが大きかった時代である。もちろん電気や電話などもない、まさに開拓のつち音がようやく高まりを見せていた頃だった。

これは明治34・5年頃の話しである。この時から新田ベニヤの長い歴史の第1歩が始まり、また幕別町の産業基盤のひとつが形成された、まさに産業の夜明けだったのである。

幕別ものがたり

●連載
第15回

(5) 製造業の夜明け (その2)

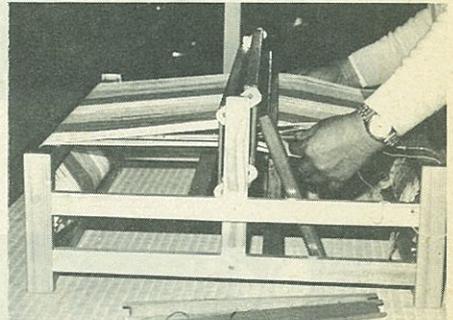
現在地（新町）に製皮工場建設のつち音が響き渡ったのは明治42年5月のことである。そして同44年8月から、わが国では

じめての固形タンニンの製造を始めた。当時、十勝地方にこのような工場はなく、村民の誇りだったという。

カシワなどの原木を次々に伐採してタンニンを抽出・精製し、大阪の新田帯革製造所へ送られた。原木を効率的に伐採し運搬するためにトロック軌道が明野、猿別、新和にまで敷設された。

（大内秀一・記）

タンニンは皮をなめす材料として使われた。カシワの樹皮からタンニンを抽出する試みは明治30年代からで、それまでは樹椎の皮が利用されていた。新田帯革が十勝に進出する以前は山陰地方の椎の樹皮を利用していたが、日本の工業発達にともなってベルトの需要が急増し、椎皮が不足するようになった。これにかわる皮なめし材料が要求されていたのである▶なげ十勝のカシワ樹林を新田仲太郎が知ったのか。明治34・5年頃に茂寄村（現在の広尾町）戸長の田中好平がカシワ樹皮を大阪工場へ持ちこんだのが、きっかけだった▶新田帯革が十勝に進出したのは明治40年。はじめ芽室に、次いで新得、清水に樹皮買受所を設けた。樹皮相場は上昇を続けたため、十勝からカシワの原生林は、しだいにその姿を消していった。



幕別町ふるさと館

〒089-05 幕別町字依田384-3 ☎(01555)6-3117
AM9:30→PM6:00 毎週火曜日休館

